

岡原子力委員会委員長の海外出張報告

平成29年11月14日

1. 出張先

英国（ロンドン）

2. 出張期間

平成29年10月24日（火）～28日（土）

3. 渡航目的

英国原子力関係者との意見交換及びロンドンで開催される第6回日英原子力年次対話への出席

4. 主要日程

10月24日（火）東京発 → ロンドン着
25日（水）原子力関係者との意見交換
26日（木）～27日（金）
日英原子力年次対話出席
原子力関係者との意見交換
ロンドン発
28日（土）東京着

5. 第6回日英原子力年次対話

英国との協力は1958年の日英原子力協定締結に始まり、日本最初の商業用原子力発電所で採用された原子炉の英国からの導入、日本の使用済燃料の再処理委託など長い歴史を持っている。

英国は2007年に発足したブラウン政権以降、エネルギー安全保障や気候変動対策の観点から原子力発電推進政策をとっている。

日英原子力対話は2012年の日英両国首脳による共同声明によって開始され、6回目となる今回は、日本側から林誠外務省軍縮不拡散・科学部不拡散・科学原子力課長が、英国側からロビン・グライムス外務省首席科学顧問が共同議長を務め、原子力研究開発、原子力政策、廃炉・除染、原子力安全と規制、広報について意見交換が行われた。

岡は、原子力政策のセッションにおいて、原子力利用に関する基本的考え方と原子力白書

の概要を説明した。

今回の対話では、各分野について両国の取組や知見を共有することの有用性を再認識するとともに、民生原子力分野における日英間の協力を今後も継続することを確認した。

6. 英国原子力関係者との意見交換

原子力分野を中心としたコミュニケーションやステークホルダーインボルブメント等に関して、政府や関係機関の活動やその役割分担をはじめとした取組を包括的に伺うことを目的として、英国原子力関係者との意見交換を行った。具体的には、グライムス英国外務省科学顧問、マクエワン英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省 NDA 支援課長、ハスラム原子力産業協会（NIA）政策部長、マティソン英国科学協会（BSA）チーフエグゼクティブ、トーマス王立大学ロンドン校教授、グリムストン王立大学ロンドン校名誉研究フェロー、ロビンソン氏（ステークホルダー対話コンサルタント）らと原子力政策、パブリックエンゲージメント、ステークホルダー関与、科学コミュニケーション、廃止措置と放射性廃棄物に関する英国の政策や取組等について聴取するとともに、意見交換した。